

## 国語

## ➔ 3・4年生 | 「伝統的な言語文化」

# 故事成語の成り立ちを紹介し合おう

新しい学習指導要領には、中学年で「言語生活を豊かにするために、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、実際の言語生活で用いるようにさせる」ことが示されています。

ここでは、「故事成語」の学習について考えましょう。

## 1. 「言葉の成り立ち」に興味を持てる導入

故事成語を扱う学習活動として、次のようなものが考えられます。

- ① 故事成語とは、どのようなものかを知る。
- ② 故事成語の意味を知る (調べる)。
- ③ 故事成語の成り立ちを知る (調べる)。
- ④ いろいろな故事成語を集めて、紹介し合う。
- ⑤ 故事成語を適切に (効果的に) 使って文章を書く。

これらのうち、①②③は基礎・基本的な知識の「習得」であり、④⑤は表現活動を伴う「活用」です。

児童が、故事成語に興味を持ち、正しい意味を理解し、自分の表現として使えるようになるには、最初の出会わせ方が大切であると考えました。そこで、教師が故事成語の成り立ちを紹介することから学習をスタートさせました。

## 2. 習得した知識の活用を図る授業の実際

- ① 故事成語の成り立ちを聞いて、感想を述べ合う。

### (例) 「朝三暮四」

昔、中国に猿をたくさん飼っている男がおりました。男は、猿たちの餌をできるだけ節約したいと考えていました。そこで、ある日、猿たちを集めてこう言いました。「お前たちの餌のどんぐりのことだが、朝に三つ、夕方に四つやろうと思うがどうだろう」

すると、猿たちは怒り出しました。

そこで、男は言い直しました。

「では、朝に四つ、夕方に三つやることにするよ。これならいいかい」

すると、猿たちは、大喜びしました。もらえるどんぐりは同じ数なのに面白いですね。

(注) 「広辞苑」にある説明をもとに再構成。場面の様子を描いた絵も示しながら話す。

故事に由来した言葉を「故事成語」ということを知り、「朝三暮四」の意味を理解する。

- ② 国語辞典・故事成語辞典などを活用して、いくつかの故事成語を調べ、「意味」と「成り立ち」を整理する。

- ③ 友達に紹介したい故事成語を選び、成り立ちをショート・ストーリーとして再構成する。起承転結を明確にして、紙芝居風の絵もかく。「意味」・「成り立ち」・「使い方の例」の3つを入れて発表できるように準備する。

- ④ 「故事成語の成り立ち発表会」を行う。

- ⑤ 自分が調べた故事成語・発表会で知った故事成語の意味を理解し、適切に使って文を書く練習をする。学習 (単元) を振り返り、感想を書く。

## 3. 故事成語・ことわざ・慣用句を活用する学習

故事成語に限らず、ことわざや慣用句でも、言葉そのものだけでなく、「意味」や「適切な使い方」を一緒に学習することが大切です。故事成語・ことわざ・慣用句を入れて短文を作り、適切な表現であるかを検討する活動は必要不可欠です。日常の表現活動 (書く活動) の中で、これらを効果的に使っている子どもは大いに賞賛し、学級全体に紹介することにより、子どもの言語意識が高まっていきます。